

令和4年度 第3回 高鷺地域協議会 要録

【日 時】令和5年3月9日（木） 16:00～17:45

【場 所】高鷺振興事務所 2階 集会室

【出席者】委 員：上野 聡、山畑 光知哲、上村 ひとみ、清水 聡、山川 弘保、
仲谷 志保、野田 育子、上村 英二、下牧 直哉、福手 均、
蓑島 俊輔、渡邊 慎

（欠席者：林 克憲、麦島 洋介、和田 哲哉）

事務局：島野高鷺振興事務所長、永瀬高鷺振興課長、北田市民係長

【会議内容】

1. 開会 16時00分

2. 会長あいさつ

3. 振興事務所長あいさつ

4. 協議事項

(1) 令和4年度地域協議会 事業報告・決算報告

事務局より、資料に沿って事業報告と決算報告の説明をおこなった。

委員⑤

委託料で「ほ一かな！たかす」配信にかかるものが70万あり、毎年これだけ支払うと他の活動に使えなくなる。費用の一部を外部から集めて来るなどして抑える方法はないか、会議後半の部会で協議してほしい。

事務局

後ほどの報告事項の項目の中で、そのことも含めてお話しする。

(2) 地域協議会活動に関する課題と要望について

事務局

先日、7つの地域協議会会長と振興課長が集まる会議があり、活動に関することや交付金の使い方について課題を感じていたり、他の地域はどうしているといった質問が出された。

委員の皆さんからもお聞きする機会を設けたいと思って議題に挙げさせて頂いた。

委員①

後の報告事項のところで今年度の活動の振り返りを皆さんにお聞きするよう予定しているが、そのことも含めて皆さんに一人ずつお聞きしていったらどうか。

委員②

地域づくりや高鷺をどうしていったらよいか、という部会に参加させて頂き有意義だった。

委員③

ICT 部会が何をやっているかが分かりにくかったので、全体会を定期的に行って福祉部会にも情報共有してもらえると良かった。

委員④

ICT 部会では新しいガイドラインの作成、制度づくりなどがされて良かった。

委員⑤

高鷺では裏表なしに意見や異議が言えるところが素晴らしい。今までは高齢者への支援に対して時間を掛けた。これからは若い方、子育て中の方への支援にもお金も力もかけると良い。

委員⑥

ICT 部会の取組みは良いものであると思っている。質問があり、公共施設の方向性について、いつ頃公表できるか。また、他の地域協議会はどのような取組みをしているのか聞きたい。

事務局

公共施設適正配置計画は既に策定済みであり、その行動計画案について現在協議しようとしている。施設分野ごとに協議しており、公開できるものについては既にホームページ等で公開済みである。令和4年度末には全ての行動計画を公開することを目標に動いている。また、他6地域の地域協議会活動内容について説明。

委員⑦

活動するごとに課題が見えてきた。ライン広報は配信内容がマンネリ化しており、やり方を変えていく必要があると感じている。活動を停滞させるのではなく、どのように発展させていくかを考えながらやっていくことが大事である。

委員⑧

実行部隊ができたことで活動がしやすくなった。活動が発展し中身が充実するとともに、財源を確保することが課題となる。財源の相談をしながら実行部分を担っていきたい。

委員⑨

来年度は、課題に対して具体的な方向性を出すような活動をしたい。

委員⑩

ラインスタンプの企画は、子どもたちが楽しそうに参加している様子を目にした。とてもうれしく来年も継続して関われると良いと思う。

委員⑪

限られた予算であり、費用対効果を考えると何も出来ず何をやっても赤字であるが、色々な課題がある中で何を選んで協議、実行するかが大事である。どんな高鷺にしていきたいかというビジョンを今まで以上にはっきりさせ、無駄のない取り組みをする必要がある。深く話し合うことがされないまま、なんとなく取組みが行われていることが問題である。

委員⑫

高鷺福祉交流センターについては、耐震診断を令和5年度に行い、軽微な補強修繕等で使

えるということになれば継続して使う。高鷺配食サービスに関しては、独居の人や昼間は一人になって昼食に困る高齢者に対する配食の方法や対策を検討した。また、出生数から見た、その後の人数の推移について、子ども連れでの転入・転出状況がどう関連しているのか興味があり、調べてみたい。

委員①

地域協議会では何ができるかを考えると、やれることとやれないことがあることを感じる。また、福祉のこととなるとどうしても高齢者支援に目がいくが、方向転換して子育て世代への支援に力を入れることが大事だと考える。これからの高鷺の方向性、何を大切にしていっていかを話し合う場を設けることは大切である。来年度はまちづくりの方向性を示した骨子づくりを部会とは別に行ってみたい。

ICT 部会のライン情報配信にかかる費用の比重が大きいため、観光協会や商工会から協力してもらおう。まちづくりは、地域の人と企業団体が一緒にやるものである。そのような話し合いをしながら活動をしていきたい。

5. 報告事項

(1) 公式ラインスタンプの応募実績、スタンプ制作・販売について

委員⑦

昨年度は8つのことばで募集したが、今年度はそれに好きな方言を追加し9つのことばで募集した。また、昨年度は入選作品と入選者の紹介を紙の広報紙面で紹介したが、今年度はライン広報上で紹介した。子どもが楽しんで参加した、スタンプを使っているという声を頂いており、うれしく思う。実際、どれだけの人がダウンロードをしてスタンプを使っているかはデータで見えずわからないが、周りの人からの実際の反応を見ると、良い取り組みをしているということを感じる。これからは友達登録のしかけにラインを使う方法を考えていきたい。

ライン登録状況、考察について

委員⑦

現在 836 名で登録者数は微増している。登録者数 500 人までは、何か景品を付けないと登録してもらえなかったが、最近はおそらく口コミで増えている。ブロック率が増えているため対策を取る必要がある。引き続き、目標数に届くよう取り組んでいきたい。

また、配信したものがどれだけ読まれているかのデータについては、定期配信している業者は比較的數字が低い。新規事業者からの配信は數字が高く、読者が興味を持たれていることがわかる。また、写真や動画を付ける配信はよく見られていることが読み取れる。

配信に関しては今のメンバーでは手が回りきらないようになった。システムを変えるか、人を雇うか方法を考えないといけない。来年度はそういった課題も解決するよう検討していく。

委員⑨

タキマタ会はデータ上ではよく見られているという數字が出ているが、その後定期購読の方が増えたわけではない。配信している他の事業者の売上はどうか。

委員⑦

数字では挙がってこないが、定期的に配信している商店は売上が伸びている。配信は売上を伸ばすためというよりは、店や売っているもの、サービスを住民へ周知するためのものであるということ。売り上げを伸ばすには 1 回配信して終わりではなく、定期的に配信することや、配信したら次はどうしていくかを考えること大事である。

委員⑩

配信する曜日も影響するかも知れない。

②高鷺地域関係（地域振興）事業について

事務局

郡上市全体が過疎地域に指定されたことに伴い、過疎債を利用した過疎地域持続的発展事業を 7 地域でそれぞれ立案し、過疎対策や人口減少対策等に取り組む。高鷺は「移住定住地域の担い手づくり推進事業」という事業名で将来的な人口減少抑制、関係人口から移住定住人口に繋げていく事業を行う。

一つ目に空き家利活用を行う。高鷺地域は独特の雇用形態があり、グリーンシーズンとホワイトシーズンで分かれており通年雇用はなかなか無い。独特の雇用形態合わせた暮らしの場を提供する一環でシェアハウスの試行運用をし、データの蓄積や運営ノウハウの積み上げを行い、高鷺地域に合った空き家の利活用方法を検討していく。

二つ目に、ひるがの地区内において利活用可能な空き家の実態調査を行う。

三つ目に情報収集と発信を行う。令和 6 年度以降もブラッシュアップしながら継続して行う予定である。

また、新規地域おこし実践隊員を募集し、渡邊慎さんが積み上げてきたものを継続しつつ、新たなミッションを加えた活動を行ってもらう。名称は協力隊から実践隊に変更となる。その他、たかすふるさと祭りの予算、地域振興推進事業（所長杵ソフト）予算も例年通り確保している。地域振興推進事業では今年度「花飾り推進事業」、「高鷺地域の野草・樹木の活用調査と講演会事業」、「鷺見氏のルーツを探る番組制作事業」、「高鷺の歴史資料収集本の出版事業」といった事業に補助金を拠出し、まちづくり、地域振興、文化振興のための事業を推進している。来年度も、地域振興のためのきめ細かい助成をし、皆さんの活動を支援していきたい。

また、地域協議会交付金の中でライン広報の情報発信にかかる経費が大きく、活動費全体を圧迫しているといった件では、ライン広報事業は最終的に自立を目指しているため、かかる経費を精査して、観光協会や商工会など外部の協力を頼る部分、地域協議会で持つ部分を整理していきたい。さらに、過疎地域持続的発展事業の情報発信部分でも、ライン広報事業の一部経費を賄いたいと考えている。

委員①

渡邊君はひるがのでゲストハウスを運営するよう準備中であり、引き続き高鷺に残り地域振興のためにも関わってくれる。来年度は、新地域おこし実践隊員といった仲間が増える。ぜひ高鷺の勉強をして我々と一緒に活動をしていってほしいと思う。